

## 「智恵子抄」発刊 80 周年記念総選挙

高村智恵子は 1938 年（昭和 13 年）10 月 5 日、南品川のゼームス坂病院で亡くなりました。

品川郷土の会は、智恵子終焉の地、ゼームス坂病院跡地にレモン哀歌の記念碑を建立し、顕彰しています。

今年は、詩人で彫刻家の高村光太郎が妻・智恵子への思いをつづった詩集「智恵子抄」が出版されてから 80 年になります。

これを記念し、智恵子が生まれた福島県二本松市の団体「智恵子のまち夢くらぶ」から、詩集の中から最も心に残った作品を決める「総選挙」を開催すると連絡がありました。

同団体は、市内や関東圏などに住む 50～80 歳代の男女 25 人で活動。智恵子ゆかりの地を観光客に案内するツアーや、高村夫妻についての勉強会を開くなど顕彰活動に取り組んでいます。

智恵子の生誕 120 年や没後 70 年といった節目には、朗読会やコンサートといったイベントも企画し、当会とも交流があります。

募集対象は、出版社・龍星閣の「智恵子抄」と続編「智恵子抄その後」の 36 作品。

最も印象に残った 1 作品を選び、郵便はがきに〈1〉作品名〈2〉選んだ理由（100 文字以内）〈3〉氏名〈4〉住所〈5〉電話番号〈6〉年齢——を書き、「智恵子記念館」（〒969・1404 二本松市油井漆原町 36）に送る。

締め切りは 10 月 31 日（消印有効）で、応募は 1 人 1 回まで。

抽選で 80 人に、光太郎と智恵子の記念品が贈られます。

開票結果は、同団体が 11 月 21 日に開く予定の第 2 回全国「智恵子抄」朗読大会で発表されます。